

昭和30～50年代、農村から市街地へ

# 足立の変化追体験

## 郷土博物館 写真142枚集め紹介

足立区立郷土博物館(大谷田5丁目)で、特別展「写真で見るあだちの歩み」が開かれてい

る。農村から市街地へと急速に変化を遂げた昭和30年代から50年代を中心に紹介する写真142枚を集めた。

1950(昭和25)年には26万人だった足立区の人口は、80(昭和55)年には62万人を超えた。写真は、人口増とともに、田畑が宅地になり、道路が舗装されるなど、変わっていった足立区の姿を映す貴重な記録だ。

展示は5章に分かれている。第1章の「変わりゆく風景」からは農村の風情が感じられる。第2章「災害をこえる」では、たびたび台風で水害に見舞われ、道路が浸水した様子が見られる。第3章「都市化によって整う」では、区最初の2階建ての団地も紹介される。

第4章「記憶に残る出来事」には、すでに解体された千住火力発電所のお化け煙突や、東京オリピックの聖火リレーなどの光景が登場。第5章



白バイに先導され、千住旭町を走る聖火リレーのランナーたち。1964(昭和39)年撮影(足立区立郷土博物館提供)

「くらしの諸相」では、商店街の昔の姿などが写されている。

多田文夫学芸員は「変わっていないようで、変わっている足立を実感でき、変化を追体験できます」と話している。

12月27日まで。午前9時から午後5時(入館は午後4時半まで)。月曜休館(月曜が祝日の場合はその翌日)。高校生以上200円、中学生以下無料。第2・第3土曜は無料公開で、午後にギャラリートークなどもある。問い合わせは同博物館(03・3620・9393)へ。

## 渡海文科相が学校視察 足立・五反野小 都立 白鷗高



子どもと一緒に給食を食べる渡海文科相—足立区立五反野小学校で

渡海文部科学相は21日、9月に就任して以降初めての学校視察として、足立区立五反野小と都立白鷗高校(台東区)を訪れた。

全国で初めて、地域住民も運営に携わる「コミュニティ・スクール」に指定された五反野小と、都内で初めての公立中高一貫校になった白鷗高を見終わった渡海氏は「やれば、こういうことができる」ということがよく分かった。コミュニティ・スクールの制度をせっかく作ったのに進んでいないのは残念だ」と語った。

渡海氏は五反野小で「総合的な学習の時間」や国語の授業を視察。児童らと給食を食べた後に白鷗高に移り、数学や日本史の授業を見た。